

生まれ変わった「広報すぎなみ」をPR

4月15日午前10時、JR阿佐ヶ谷駅の利用者に、新しく生まれ変わった「広報すぎなみ」を配布しました。広報すぎなみは、これまでのお知らせ記事中心の広報から、より多くの区民に読んでもらうため、区の政策や地域の魅力を特集するなど大幅なリニューアルを加えての発行となりました。

広報紙は、区の広報媒体としては最も区民に馴染みの深いもので、杉並区では18.5万部を発行しています。広報紙ではこれまでも「区立施設再編整備計画」や「待機児童対策」など、区政の大きな課題を記事として掲載してきましたが、区民の方の反応は必ずしも活発とは言えません。

そこで区では、平成28年度から「伝える広報から伝わる広報」を目指して、広告やデザインなどの分野で活躍してきた民間の人材を「広報専門監」に登用しました。この専門監のアドバイスを受けながら、「手にとってみたい」と思わせるようなデザインとわかりやすい内容を目指して、広報紙のリニューアルに取り組んできました。

新たに生まれ変わった広報紙の表紙を飾るのは、詩人の谷川俊太郎さんです。生粋の杉並人で、幼い頃の杉並のまちの様子を紹介しているほか、好きな場所として、舞台を気軽に観られる「座・高円寺」や散歩コースの美しく整備された善福寺川緑地周辺を案内しています。この谷川さんの特集は3ページに渡るもので、広報紙のリニューアルで、月3回の発行から2回に回数を減らすかわりに充実された部分です。毎月1日には、区政の課題を特集、そして15日には地域にゆかりの「すぎなみビト」を特集していきます。

15日午前10時、阿佐ヶ谷駅にはハッピー姿の広報課の職員が、1年がかりで工夫をしてきた広報紙を手にPRです。担当者が総出で「新しい広報すぎなみができました。どうぞ、お読みください。」と駅の利用者に出来たばかりの広報紙を配布しました。広報紙を手にした30代の女性は、「広報紙というと難しいイメージがあったのですが、表紙を見ただけで楽しそうと感じました。」と笑顔で話していました。広報すぎなみは、月2回（1日・15日）発行。配布は、新聞折込のほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどで行っています。



【問い合わせ先】

総務部広報課：03-3312-2111